

寺も愛宕明王院など、同じく、小立野邊にありたるならん。舊寺地の事詳かならず。又觀音堂村は石川郡寺中町の隣邑にて、觀音堂の跡とて、石像の觀音を安置せりといへり。

○卯辰愛宕社址

其の地は賢聖坊の向ひ、寶泉坊の隣地なり。延寶二年明王院由來書に云ふ。當寺愛宕は、利家卿以來祈禱所にて、金澤山愛宕寺明王院と號し、小立野本多安房屋敷地に不成以前有之處、利長卿越中より金澤御入城後、御城鬼門先へ愛宕堂建立可仕旨被仰出、慶長六年卯辰山へ移轉、本社・拜殿・石階・鳥居・門等は造營有之。とあり。三壺記に、愛宕社は昔佐久間玄蕃金澤在城の頃より存在せし社にて、利長卿も甚だ信仰し給へりとあるも、則此の愛宕社の事なり。

金澤の愛宕は、小立野寶幢寺の愛宕と兩社にて、兩愛宕と呼べり。利長卿の親翰にも、兩あたごよりのすみつき見申候。大なごんより我々代まで、正五・九月のきたうあたごよりせられ候て、いまもつてまへのごとくによく候。と載せ給へり。又篠原出羽守の判書にも、富山様より御書頂戴、

正五・九月の御祈禱不相替兩愛宕へ被仰付。とも記載せり。三壺記に、慶長十四年富山城火災に付、高岡に新城を築き、利長卿移徙の時、波着寺法印・兩愛宕法印來て御祈禱被仰付。とあり。兩愛宕法印は、卯辰の愛宕明王院と小立野の愛宕寶幢寺との兩別當なり。舊藩中は兩社共に祈禱所にて、社殿も各、藩費造營ありしかど、明治二年神佛混淆御廢止に付き、明王院は復飾して神職と成り、寶幢寺は願に依りて復飾せざりし故に、小立野の愛宕社は卯辰愛宕へ合併に成り、神像をば卯辰愛宕社へ遷座せしかど、卯辰愛宕社に氏子もなく、社殿永續の目途立たず、追々破壊するに依りて、明治六年に盟國神社へ合併し、社殿等を破却し、今は遺蹟のみと成りたりけり。

○愛宕山明王院址

明王院は眞言宗にて、愛宕社の別當也。延寶二年の由來書に、當社愛宕社は、高德公以來御祈禱所にて、金澤山愛宕寺明王院と號し、草創開基之年代、舊記等無之不詳。とあり。舊藩中は、小立野寶幢寺と此の明王院とを兩愛宕別當と稱し、眞言宗の觸頭を勤め、寺社奉行の直支配にて、

重き取扱の寺柄なりしかど、明治二年に復飾して桃司常男と改稱し、神職と成り、同五年十一月卯辰愛宕社の祠掌に任せられしが、幾程もなく歿し、其の嗣子もなく、翌六年盟國神社へ合併相成り、遂に桃司の家は絶えたりけり。

○愛宕山

三壺記に云ふ。別當明王院二代の住職退院の時、師匠の坊なればとて、愛宕より觀音山に隱居し、則ち觀音堂を建立し此に居す。故に愛宕・觀音兩山に成りたり。往古は愛宕の山なりと云ふ。とありて、昔は觀音山の地へかけ愛宕山と呼びたりしと聞ゆ。

○愛宕坂跡

明王院門前より愛宕社へ登る坂路にて、従前は石階ありて過急の坂路なり。坂路の上に門ありて、それより愛宕山と呼べり。明治六年社殿を廢せし比、石階をも廢し、今は遺跡あるのみ。

○愛宕門前

明王院門前とも呼べり。此の地は愛宕山の下にて、舊藩中は愛宕社の門前地なり。町家數戸ありて、地稅を收納せし

かど、廢藩後門前地は一般に廢止せられたり。

○愛宕下町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、愛宕下町。とあり。按ずるに、延寶二年明王院由來書に、寺之道町通り幅九尺・長さ百二拾間拜領、則書付所持仕候。其後陽廣公之時、西尾隼人を以、愛宕堂之道筋幅三間に長さ廿三間之所拜領仕。とあり。右社寺の道路は、愛宕下町と呼びたる町地の邊なるべしといへり。但し右下町は地子町なれば、拜領地なる道路は、所謂愛宕門前と呼びたる町地なるべし。

○うぎやこ橋

金澤橋梁記に、うぎやこ橋卯辰あたご下也。とあり。此の橋名今は絶えたり。愛宕山の坂下なる江川の橋なるべしといへり。

○愛宕町

今愛宕一番丁・愛宕二番丁・愛宕三番丁など、呼べり。此の地は元祿以前より、愛宕門前・愛宕下町或は茶屋町など呼び來りし町々をば、都て愛宕町とも愛宕何番丁とも呼びしなり。